



MONTHLY LONG TERM REPORT

ルポにワンランク上の走りを! 待望のKAROマット導入



REPORT / 川崎憲一郎 (本誌)
取材協力 & 問い合わせ先 /
コックス ☎ 0465-81-3034 www.cox.co.jp
カロ ☎ 03-3372-6340 www.karo1980.jp

Volkswagen Lupo GTI Cupcar

Vol.4

ロールケージに罪はない。しかし果たしてカーマットが無いのはカップカーの宿命なのか。ナンバー付き競技車両の意地にかけて否定しよう。本長期レポートでは2号連続でカロマットをレポートする。全ての競技車両、マイナー車両、快適を求める車両オーナーへ、勝利の日まで!



2000以上もの適合車種に見事に漏れてしまったオーナー、カスタム車両オーナーは型取りをすることで悲劇を回避できる。難しいことは一切無く、カートのラバーマット位置まで指定できるのが嬉しい

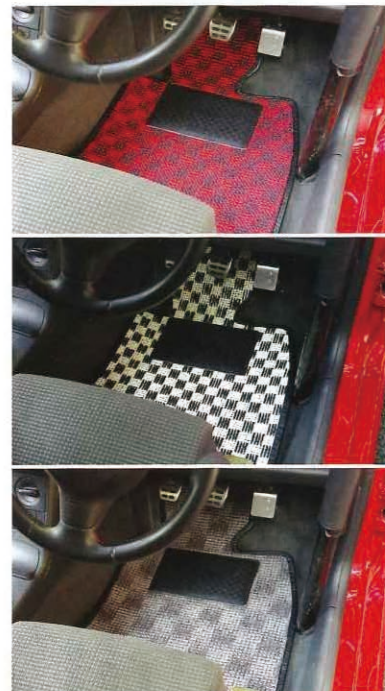
サーキット走行オフシーズンの今、切々と思うことがある。サーキットでも市街地でも、結局カップカーはカップカーなのだ。硬い足回りやロールケージは鋭いコーナーリングの実現に買っているが、一般公道の凹凸にも鋭い反応を示す。まあそれは当然だとしても、カーマットが敷かれていないのは、かなりカップカー然としている。そもそもフロアから生えた棒のおかげで、純正品すら皺がよってしまうのだからもうしょうがない。

しかしである。クルマを如何に楽しむかという文化的使命を帯びた一編集部員がそれで諦めていいのか。ナンバー付きカップカーなのに、サーキット上だけで楽しい車両に仕上げると。違う、当面のルポに必要なアイテムはマフラーではなく、クルマにおける快適性の基本、カーマットなのだ。

そもそも本当にカーマットっていうヤツは悲しいのである。当然のように皆の足元に敷かれているものだから、ヤツのがんばりに全面的な理解を示す人が少ない。ボクなんかは、雨の日の乗車時でも高速道路走行時でもミニ・イベント取材時でも「うむむ、うむむ」と唸り続けてしまう。雨の日は車内が汚れるどころか運転中にカカトが滑るし、高速走行時は振動騒音オンパレード。なかなかどうしてミニのインテリアは可愛いから、ロールケージにスッポンポンのルポではどうも分が悪い。

で、どうしようそれに耐えかねて今回突如すがりついた先が、今年で27年目を迎える実力派カーマットブランド「KARO (カロ)」というわけである。カロのカーマットと言えば、イノチエンティ・ミニ・デ・トマソやら、オベル・カリブラやら、現時点で2137車種(2007年1月4日時)に適合しているほか、オーナー自身が作った型を元に制作されるオリジナルカーマットも用意されているから当ルポにもピッタリなのだ。マットの素材自体もオーナーのニーズに合わせて、抜群の重厚感を誇る最高級ライン「クレスト」、シックで落ち着きのある「クローネ」、大きなチェック柄がオトナな「ウーリー」、ウールのような肌触りと発色を両立した「フラクシー」、天然シザル麻が静電気すらも防ぐ「シザル」の5種類がラインナップされており、いずれも防音、防炎、耐久性に優れている。

実際ボクはそれぞれがカッコイイものだから、カップカー専用マットの型取りが終了した時点でも未だに選びあぐねている始末だ。詳しいカロマットの情報は次回装着時と合わせてレポートするとして、とりあえず今は様々な装着例がアップされているカロHPを参考に決断を迫られている、むふふ的状况なのである。最近「むふふ」を味わっていない読者がいたら是非5月号の発売までカロHPを見て、この感覚を味わおうではないか。



マットの種類、カラーの組み合わせは最も悩むところ。防音・防炎性に優れるといった高性能マットであるだけでなく、車室内に長居したくなるカラーリングはまさに「むふふ的」である